平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月5日

上場会社名　アルフレッサ ホールディングス株式会社　　上場取引所　東 大
コード番号　2784　URL　http://www.alfresa.com/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 石黒　傳六
問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員　財務・広報IR担当　(氏名) 三宅　俊一　TEL 03-5219-5102

四半期報告書提出予定日　平成25年2月12日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	1,808,944	2.0	20,616	245.3	27,458	108.8	17,939	226.7
24年3月期第3四半期	1,773,025	8.2	5,970	△58.2	13,149	△35.9	5,490	△45.1

(注)包括利益　25年3月期第3四半期　19,485百万円　(169.3%)　24年3月期第3四半期　7,236百万円　(△60.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	341.08	―
24年3月期第3四半期	107.20	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	1,179,326	270,049	22.9
24年3月期	1,077,378	244,015	22.2

(参考) 自己資本　25年3月期第3四半期　269,868百万円　24年3月期　239,546百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	―	45.00	―	45.00	90.00
25年3月期	―	46.00	―		
25年3月期(予想)				47.00	93.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,403,000	3.0	18,100	93.0	27,200	48.4	16,500	149.8	309.73

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

詳細につきましては、〔添付資料〕3ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	58,754,400 株	24年3月期	51,972,563 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	3,416,231 株	24年3月期	755,942 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	52,595,193 株	24年3月期3Q	51,217,357 株

当第3四半期連結会計期間において 常盤薬品株式会社および株式会社恒和薬品を完全子会社とする株式交換の実施に伴い、それぞれ1,570,837株、5,211,000株の新株発行をいたしました。また、連結子会社が保有していた株式会社恒和薬品普通株式に割当をした当社普通株式2,658,528株、および常盤薬品株式会社が保有していた当社普通株式230株については、株式交換を実施した後当社が買い取り、当第3四半期連結会計期間末現在自己株式として保有しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きは終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
2. 業績予想に関する事項につきましては、〔添付資料〕3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益及び包括利益計算書 …… 6
第３四半期連結累計期間 …… 6
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8
（５）セグメント情報等 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間（平成24年4月1日～12月31日）におけるわが国経済は、昨年末の政権交代による景気対策への期待が高まるものの、欧州における財政不安の長期化や新興国経済の減速、長引くデフレの影響等から、国内景気の先行きについては依然として楽観できない状況にあります。

医療用医薬品市場におきましては、昨年春の診療報酬改定により平均6.0%の薬価基準の引下げが実施されましたが、新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象品目や後発医薬品等の需要の増加により、前年同期と比較して2.3%伸長（クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社推定）いたしました。

このような状況のなか当社グループにおきましては、平成22年4月にスタートした「10-12中期経営計画　進化と拡大　*Next Stage*」の最終年度を迎え、引き続きその重要課題の達成に向けて取り組むとともに、特に本年度は、厚生労働省の「医療用医薬品の流通改善に関する懇談会（流改懇）」の流通改善第3ラウンドとして積極的に取り組んでおります。

昨年10月1日には、山口県を中心とした中国エリアおよび北九州エリアにおいて、医療用医薬品を中心に、一般用医薬品、医療機器・用具等の卸売事業を展開する常盤薬品株式会社（本社：山口県宇部市）を完全子会社とする株式交換を実施し、両社が持つ機能の強化とそれぞれの経営資源の相互活用を進めてまいりました。また同日付で、医療用医薬品等卸売事業を行う当社の連結子会社である株式会社恒和薬品（本社：福島県郡山市　議決権間接所有割合 51.0%）を完全子会社とする株式交換を実施し、グループ経営をより一層強化いたしました。

グループシステム構想につきましては、情報システムに関する安全性の確保を通じてお得意様満足度の向上をはかるため、情報セキュリティーの国際規格であるISO27001：2005の認証を取得するとともに、売上の拡大や取扱アイテム数の増加によるデータ容量の増大に対応するために、グループ基幹システムをメインシステムとディザスターリカバリーシステム共にバージョンアップし、情報処理能力を向上させ本年1月から運用を開始しております。

当第３四半期連結累計期間の業績は、新たに連結子会社となった常盤薬品株式会社の業績が加わった影響や同社との株式交換による「負ののれん発生益」47億41百万円を特別利益に計上した一方で、セルフメディケーション卸売事業の当社完全子会社アルフレッサ ヘルスケア株式会社において昨年9月に実施した希望退職の募集に伴う「特別退職金」6億89百万円やセルフメディケーション卸売事業に関連する「のれん償却額」7億79百万円を特別損失に計上したこと等により、売上高1兆8,089億44百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益206億16百万円（前年同期比245.3%増）、経常利益274億58百万円（前年同期比108.8%増）、四半期純利益179億39百万円（前年同期比226.7%増）となりました。

各セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

〔医療用医薬品等卸売事業〕

医療用医薬品等卸売事業におきましては、特に医薬品流通改善に向けた取り組みを推進するとともに、継続してさらなる効率化による販管費率の低減に努めております。昨年5月には、アルフレッサ株式会社が愛知物流センター（愛知県一宮市）を稼働させ、同社の東海地域の物流センターを集約したことにより、充分な保管数量の確保と品揃え機能を強化して、安心・安全な医薬品流通による顧客ニーズへの対応とローコスト運営を進展させました。さらに、将来において流通量の増加が見込まれる抗体医薬品やバイオ医薬品の輸送時に求められる厳格な温度管理に対応するために、アルフレッサ株式会社が、治験薬やスペシャリティ・ファーマ等を対象とした長時間一定温度の保持が可能な高度温度管理物流を事業化いたしました。本事業につきましては、アルフレッサ株式会社が、北海道エリアは株式会社モロオ（本社：札幌市、代表取締役社長：師尾仁）と、九州エリアは富田薬品株式会社（本社：熊本市、代表取締役社長：富田正夫）と、「物流業務に関する業務提携契約」をそれぞれ締結し、その他のエリアについてはアルフレッサグループ会社と連携することにより、日本全国において展開を目指しております。

当第３四半期連結累計期間の業績は、連結子会社常盤薬品株式会社の業績が加わった影響が寄与して売上高１兆6,416億74百万円、営業利益212億33百万円となりました。なお売上高にはセグメント間の内部売上高66百万円を含んでおります。

〔セルフメディケーション卸売事業〕

セルフメディケーション卸売事業におきましては、昨年10月1日に、グループ内のセルフメディケーション卸売事業を集約してさらなる事業の強化と効率化をはかり、お得意様満足度を高めるために、当社の完全子会社である株式会社琉薬（本社：沖縄県浦添市）のセルフメディケーション卸売事業をアルフレッサ ヘルスケア株式会社（本社：東京都中央区）に事業譲渡いたしました。

一方、一般用医薬品市場がマイナス成長であったことをはじめ、売上総利益率の低下と昨年度に実施した同事業の集約によるシステム統合や業務プロセスの統一の影響により、当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高1,545億42百万円、営業損失20億7百万円となりました。なお売上高にはセグメント間の内部売上高4億2百万円を含んでおります。

〔医薬品等製造事業〕

医薬品等製造事業におきましては、医療用医薬品が昨年春の薬価改定の影響を受けたものの、医薬品をはじめとする受託製造ならびに睡眠障害治療剤「モディオダール錠100㎎」や整形外科領域の体内固定用ケーブル、便潜血診断薬群等が順調に推移したことにより、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高201億55百万円（前年同期比1.7％増）、営業利益10億31百万円（前年同期比74.7％増）となりました。なお、売上高にはセグメント間の内部売上高69億59百万円（前年同期比2.5％増）を含んでおります。

なお、当連結会計年度より、セルフメディケーション卸売事業の組織再編により同事業の位置づけが高まり、経営管理区分の見直しを行ったことから、従来の「医薬品等卸売事業」を「医療用医薬品等卸売事業」と「セルフメディケーション卸売事業」に区分して報告しております。また、従来の報告セグメントによる前年同四半期比較につきましては、「３.四半期連結財務諸表（５）セグメント情報等」をご覧下さい。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

〔資産の部〕

当第３四半期末における総資産は、前連結会計年度末と比較して1,019億47百万円増加し、1兆1,793億26百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末と比較して929億82百万円増加し、9,871億48百万円となりました。これは主に「受取手形及び売掛金」が455億18百万円、「有価証券」が325億6百万円、それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は前連結会計年度末と比較して89億65百万円増加し、1,921億77百万円となりました。これは主に、常盤薬品株式会社の連結子会社化等の影響により「投資有価証券」が63億10百万円増加したことや、株式会社恒和薬品との株式交換による完全子会社化等の影響により「のれん」が35億13百万円増加したことによるものであります。

〔負債の部〕

当第３四半期末の総負債は、前連結会計年度末と比較して759億13百万円増加し、9,092億76百万円となりました。流動負債は前連結会計年度末と比較して720億78百万円増加し、8,742億61百万円となりました。これは主に、「支払手形及び買掛金」が631億62百万円、「未払法人税等」が89億86百万円、それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は前連結会計年度末と比較して38億35百万円増加して350億14百万円となりました。これは、繰延税金負債等の「その他」が33億43百万円、「退職給付引当金」が10億7百万円、それぞれ増加したことによるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想におきましては、平成24年10月30日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第３四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ81百万円増加しております。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	116,924	117,818
受取手形及び売掛金	567,839	613,357
有価証券	23,500	56,006
商品及び製品	118,122	136,653
仕掛品	476	395
原材料及び貯蔵品	1,586	1,882
未収入金	59,133	53,378
その他	7,299	8,314
貸倒引当金	△715	△660
流動資産合計	894,165	987,148
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	35,016	33,948
土地	50,102	50,783
その他（純額）	10,882	12,281
有形固定資産合計	96,001	97,013
無形固定資産		
のれん	1,634	5,147
その他	5,011	4,966
無形固定資産合計	6,645	10,114
投資その他の資産		
投資有価証券	61,240	67,550
その他	23,372	22,023
貸倒引当金	△4,047	△4,524
投資その他の資産合計	80,565	85,049
固定資産合計	183,212	192,177
資産合計	1,077,378	1,179,326

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	779,961	843,123
短期借入金	880	880
未払法人税等	1,429	10,416
賞与引当金	5,434	3,506
その他	14,477	16,334
流動負債合計	802,183	874,261
固定負債		
長期借入金	2,364	1,849
退職給付引当金	16,139	17,146
その他	12,675	16,018
固定負債合計	31,178	35,014
負債合計	833,362	909,276
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	84,205	100,109
利益剰余金	123,812	136,823
自己株式	△851	△1,175
株主資本合計	225,620	254,211
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,448	19,801
繰延ヘッジ損益	0	△0
土地再評価差額金	△4,484	△4,102
為替換算調整勘定	△38	△41
その他の包括利益累計額合計	13,925	15,656
少数株主持分	4,468	181
純資産合計	244,015	270,049
負債純資産合計	1,077,378	1,179,326

（２）四半期連結損益及び包括利益計算書
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
売上高	1,773,025	1,808,944
売上原価	1,666,367	1,686,234
返品調整引当金戻入額	985	705
返品調整引当金繰入額	798	762
売上総利益	106,845	122,653
販売費及び一般管理費	100,874	102,036
営業利益	5,970	20,616
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,528	1,690
受取情報料	4,184	4,339
その他	1,755	1,468
営業外収益合計	7,468	7,498
営業外費用		
支払利息	117	116
不動産賃貸費用	65	73
持分法による投資損失	－	380
その他	106	86
営業外費用合計	289	656
経常利益	13,149	27,458
特別利益		
固定資産売却益	82	60
投資有価証券売却益	4	224
負ののれん発生益	－	4,741
受取補償金	－	59
補助金収入	－	32
災害見舞金	200	－
受取和解金	40	－
抱合せ株式消滅差益	6	－
特別利益合計	333	5,119
特別損失		
固定資産売却損	82	534
固定資産除却損	94	172
減損損失	229	596
投資有価証券売却損	1	－
投資有価証券評価損	504	33
のれん償却額	－	779
特別退職金	83	689
事業構造改革費用	40	33
事業再編費用	585	－
災害による損失	180	－
特別損失合計	1,804	2,839
税金等調整前四半期純利益	11,678	29,737
法人税、住民税及び事業税	3,326	12,031
法人税等調整額	2,758	△429
法人税等合計	6,084	11,601
少数株主損益調整前四半期純利益	5,593	18,135
少数株主利益	103	196
四半期純利益	5,490	17,939

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
少数株主利益	103	196
少数株主損益調整前四半期純利益	5,593	18,135
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,612	1,352
繰延ヘッジ損益	△0	△0
土地再評価差額金	39	－
為替換算調整勘定	△9	△2
その他の包括利益合計	1,642	1,349
四半期包括利益	7,236	19,485
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,128	19,288
少数株主に係る四半期包括利益	107	197

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

連結子会社の増加

当社は、平成24年10月１日を効力発生日とした常盤薬品株式会社および株式会社恒和薬品を完全子会社とする株式交換に際して、新たにそれぞれ普通株式1,570,837株、5,211,000株を発行し割当交付いたしました。これにより、資本剰余金が15,903百万円増加しております。

（５）セグメント情報等

Ⅰ．前第３四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日　至 平成23年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注１）	四半期連結財務諸表計上額（注２）
	医薬品等卸売事業	医薬品等製造事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,759,993	13,032	1,773,025	－	1,773,025
セグメント間の内部売上高または振替高	0	6,787	6,788	△6,788	－
計	1,759,994	19,819	1,779,814	△6,788	1,773,025
セグメント利益	5,063	590	5,653	317	5,970

（注１）調整額の内容は次のとおりであります。

セグメント利益

（単位：百万円）

	金　額
セグメント間取引消去	5,788
全社費用※	△5,471
計	317

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の一般管理費であります。

（注２）セグメント利益は四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ．当第３四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日　至 平成24年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額（注１）	四半期連結財務諸表計上額（注２）
	医療用医薬品等卸売事業	セルフメディケーション卸売事業	医薬品等製造事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,641,608	154,140	13,195	1,808,944	－	1,808,944
セグメント間の内部売上高または振替高	66	402	6,959	7,428	△7,428	－
計	1,641,674	154,542	20,155	1,816,372	△7,428	1,808,944
セグメント利益または損失（△）（注３）	21,233	△2,007	1,031	20,257	359	20,616

（注１）調整額の内容は次のとおりであります。

セグメント利益

（単位：百万円）

	金　額
セグメント間取引消去	5,019
全社費用※	△4,660
計	359

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の一般管理費であります。

（注２）セグメント利益または損失は四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

（注３）会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第３四半期連結累計期間の「医療用医薬品等卸売事業」のセグメント利益が75百万円増加し、「セルフメディケーション卸売事業」のセグメント損失が0百万円減少し、「医薬品等製造事業」のセグメント利益が5百万円増加しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

「医療用医薬品等卸売事業」セグメントにおいて、従来からの連結子会社である株式会社恒和薬品の普通株式を当第３四半期連結会計期間において全株式取得したことにより、のれんが5,212百万円発生いたしました。

「セルフメディケーション卸売事業」セグメントにおいて、アルフレッサ ヘルスケア株式会社の純資産額が当社帳簿価額を著しく下回っており、のれんの実在性評価が困難となったため、のれんの帳簿価額を減額し、減少額をのれん償却額として特別損失に計上しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第３四半期連結累計期間において779百万円であります。

（重要な負ののれん発生益）

「医療用医薬品等卸売事業」セグメントにおいて、常盤薬品株式会社を株式交換により完全子会社とする過程において、負ののれんが4,741百万円発生いたしました。当該負ののれんは当第３四半期連結累計期間において負ののれん発生益として特別利益に計上しております。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、セルフメディケーション卸売事業の組織再編により同事業の位置づけが高まり、第１四半期連結会計期間より経営管理区分の見直しを行ったことから、従来の「医薬品等卸売事業」を「医療用医薬品等卸売事業」と「セルフメディケーション卸売事業」に区分し、報告セグメントとして記載する方法に変更いたしました。

なお、前第３四半期連結累計期間の報告セグメントごとの売上高および利益または損失に関する情報を変更後の区分方法により作成することは実務上困難であります。

当第３四半期連結累計期間のセグメント情報を、前第３四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成した情報は次のとおりであります。

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注１）	四半期連結財務諸表計上額（注２）
	医薬品等卸売事業	医薬品等製造事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,795,749	13,195	1,808,944	－	1,808,944
セグメント間の内部売上高または振替高	4	6,959	6,964	△6,964	－
計	1,795,753	20,155	1,815,908	△6,964	1,808,944
セグメント利益（注３）	19,238	1,031	20,270	346	20,616

（注１）調整額の内容は次のとおりであります。

セグメント利益 （単位：百万円）

	金　額
セグメント間取引消去	5,006
全社費用※	△4,660
計	346

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の一般管理費であります。

（注２）セグメント利益は四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

（注３）会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第３四半期連結累計期間の「医薬品等卸売事業」のセグメント利益が75百万円増加し、「医薬品等製造事業」のセグメント利益が5百万円増加しております。